

目標の進捗状況報告書

(2012年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	人間福祉研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果 (研究科)
中項目	6.2 教育課程・教育内容
小項目	6.2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
要素	必要な授業科目の開設状況 順次性のある授業科目の体系的配置 専門教育・教養教育の位置づけ (学部) - コースワークとリサーチワークのバランス (院)
小項目	6.2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
要素	学士課程教育に相応しい教育内容の提供 (学部) - 初年次教育・高大連携に配慮した教育内容 (学部) - 専門分野の高度化に対応した教育内容の提供 (院) 理論と実務との架橋を図る教育内容の提供 (専院)

II. 目標の進捗評価と進捗状況報告(2012.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。

進捗評価はA、B、C、Dの4段階とし、2012年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。

A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 研究科の目的、方針とカリキュラム構成(科目群)との関連を検討し、見直す。	→大学院諸問題検討委員会における検討数。	B	B	A		
2. 研究科のカリキュラム編成における体系性と各授業科目の配置を見直すと共に、それに基づいてカリキュラムを改正する。	→大学院諸問題検討委員会における検討数。	B	B	A		
3. 大学院生による各授業科目の教育内容をアンケート調査等により評価する。	→大学院生を対象としたカリキュラム編成や配置されている授業科目の評価を目的としたアンケート調査報告書の作成。	C	C	C		
4. 高い実践能力や実証研究能力の涵養という目的と各授業科目との適合性をアンケート調査等により評価する。	→福祉現場で働く福祉職員や他の大学院教員によるアンケート調査の報告書の作成。	D	D	C		

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況》

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	大学院諸問題検討委員会において、研究科の目的、方針、カリキュラム構成についての見直しの議論を何度となく重ねてきた。その結果、カリキュラム構成について見直しを行い、相互作用系科目、社会系科目、人間系科目、共通科目と4つの科目群に編成し直し、各科目をそれらの科目群に配置した。改正のカリキュラム構成については、授業科目履修心得で公表している。
目標2	大学院諸問題検討委員会では、カリキュラム構成の見直しだけではなく前期課程の全授業科目の見直しも行った。その結果、新規で追加した科目、名称変更した科目が数科目あった。授業科目一覧については、授業科目履修心得において公表している。
☆ 目標3	カリキュラム構成や授業科目の見直しを中心に検討を行ってきたために、大学院生による各授業科目の教育内容をアンケート調査等により評価するという目標に関しては、検討するのみにとどまり実施するまでには至らなかった。
目標4	これまでカリキュラム構成や授業科目の見直しを中心に検討を行ってきたために、高い実践能力や実証研究能力の涵養という目的と各授業科目との適合性をアンケート調査等により評価するという目標については、検討するのみにとどまり実施するまでには至らなかった。
備考	